

事業所名	グループホーム ゆとり ※
日付	平成20年3月3日
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	介護支援専門員・介護福祉士・認知症ケア専門士 介護支援専門員・介護福祉士
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※	

1. 評価結果の概要

<p>概評</p> <p>全体を通して（特に良いと思われる点など） JR宇野駅から岡山方面に向けて車で15分位の、バス停もすぐ側にある交通の便の良い所にある施設である。 近くには、玉原公園があり、近隣の人たちの憩いの場になっており、施設内の窓から見る桜並木に春には花見が楽しめている。近くには日常生活に困らないようにスーバーが多くあり、買い物も入居者さんの楽しみのひとつになっている。施設の方針として、研修体制や接遇の充実により、高度なケアが展開されている。</p> <p>（特に良いと思われる点） ① 職員間の統一されたケアの取り組みにより、安心できるケアが提供されている。 ② 居室空間や入浴スペースが広く伸び伸びとしており、入居者さんがゆったりと生活できるような環境である。 ③ 医療依存度の高い人への対応及びターミナルケアの取り組み等、医療連携の充実さがうかがわれる。 ④ 入居者さんの意欲向上が図れるよう、入居者さんと職員と一緒に家事を行ったり、機能訓練を行うことでADLの低下を防いでいる。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>運営推進会議の方向性を行政や地域を巻き込んで、より一層強化して頂きたい。</p>

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「誇りある暮らし」という理念に添って、たとえ判断力が衰えても「生きる意欲」を維持していきたい。 「心躍ること、老若問わず」この想いは、終生持つ事ができる能力を信じ、高齢者ケアの中で実践していきたい。 「ありがとう」の言葉を大切に、職員のチームワークを大切にしていきたい。 入居者が「家」と思えるような、ゆとりある生活を目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 入居者一人ひとりの生活史に触れ、職員と入居者が馴染みの関係を早く作れるように、エピソードを交えながら弾む会話作りに努めている。		

III ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	ブライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 入居者本人の生活歴や経験を尊重していくと共に、日々の職員との対話の中で自然に役割ができるような支援体制がある。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を認識として、努力しているものは何か。 事故を未然に防ぐ対策として、職員のレポート提出により、同じミスを繰り返さないように改善策を立てて対応している。 また、その後も自己研鑽を行い、事故の再発防止に努めている。		